

今週のズバリ こう見る

Analysis

為替の動きに逆らうのは禁物
円安を見込んで安値を買うGOLD
金

岡地(株)
東京支店
投資相談部
チーフアドバイザー
千葉 純平氏

東京金の動向を占うキーワードは、「為替の流れに逆らうな」だ。売買の主軸はニューヨーク金で判断し、カラ売りは円安基調が続く限り避けるのが得策で、突っ込み買いで臨んで良からう。

対円ドル相場の最近の動きを見ると、1ドル1102円の揉合から上放れ、105円を突破、110円を目指す勢いを見せている。ニューヨーク金の急上昇は見込みにくい、仮に1、200ドルま

で下落しても1ドル110円のドル高・円安になると、輸入採算値は4、243円となる計算で、先行きの円安を見込むと、4、250円近辺が下値支線となる。東京金期先が4、250円をなかなか割り込まないのは市場が円安を意識しているからにほかならない。米国の利上げ機運や経済指標の動向などは全てドル相場に直結しており、経済や金融の動向に神経質になる必要はない。

現在、ニューヨーク金期近が1、250ドルに接近すると、実需の買いがそこそこ入ってくる。まずは金利引き上げ観測や米国経済の好調などの弱材料が市場に流れてこようが、安値では実需の買いが支えになるため、現実的にはニューヨーク金が1、200ドルまで下がると思えない。また、ニューヨーク金の動向を予想するうえで、銀の値動きは指標的な役割を果たすので注意が必要だ。

米国がドル高容認策へ転換
国内企業に成長の兆し出るFOREX
為替

JETRO貿易
アドバイザー
佐藤 利光氏

米国の国債利回りが上昇を示し、日米の金利差を反映してドル高・円安となろう。米国経済が好調で景気回復が進んでいること、ほかに、ドル安容認政策からドル高政策へと切り替えられたことの影響も無視出来ない。

安が再燃しても安全通貨として円が買われる心配はない。今や、安全通貨は米ドルであり、米国の長期債券が買われ、ドルも買われるという現象が出てくるだろう。

今週のニューヨーク原油期近は、90〜95ドル水準で底固さを再確認する展開が予想される。7月から8月中旬にかけての原油相場は、年末に向けて国際原油需給のひっ迫状態は発生しないとの楽観ムードを背景に、大きく値位置を切り下げた。為替がドル高傾向を強めたこと、地政学的リスクに伴う原油供給障害が限定されていたこともネガティブな材料だ。ただ、年末に

向けての強力な需要拡大圧力への対応には依然として不透明感が強く、90ドル割れを試す

産対応の不確実性を高めることにも注意が必要である。足元では、4〜6月

している。ニューヨーク原油先物は逆ザヤ縮小の動きにも歯止めが掛かり始めており、期近限月主導で97・50ドル水準まで戻りを試す可能性も十分にある。警戒したいのは11日発表のIEA月報。IEAは、8月月報で年間需要見通しを引き下げると同時に、需要拡大にはOPEC増産で対応可能との見方を示すことで、原油価格の急落を促した。その再現には要注意だ。

1ドル1100円台を回復したドルがその後、大台割れの恐れも無くなり、欧州や中国経済の不安要因もドル高の材料となり、安全通貨としてのドル買いが進もう。

国内の状況を見ると、貿易関係企業の雇用の低い状態が続いていた。そうしたなか、最近、農家が直接海外と貿易するケースが増えている。これは総合商社が中小企業の貿易代行まで手が回らないなか、国内農産物が海外に販路を求めるときの活発になり、貿易関係の人材が必要になりつつあることを示す。こうした動きは企業全般の業績向上に結びつき、日本株の底上げに結びつつある。こうした株高要因は円安を招く。

OIL
原油

大起産業(株)
情報調査室室長
小菅 努氏

ような相場展開はオーバースhoot状態と評価している。原油価格の低下が、産油国の増

期GDPや8月ISM製造業指数など良好な米経済統計が必要環境に対する信認回復を促

している。ニューヨーク原油先物は逆ザヤ縮小の動きにも歯止めが掛かり始めており、期近限月主導で97・50ドル水準まで戻りを試す可能性も十分にある。警戒したいのは11日発表のIEA月報。IEAは、8月月報で年間需要見通しを引き下げると同時に、需要拡大にはOPEC増産で対応可能との見方を示すことで、原油価格の急落を促した。その再現には要注意だ。

国内の株高・円安政策も無視出来ない。現状の異次元の緩和策と成長戦略推進により株高が誘導され、これが円安を招くというパターンは市場関係者の認識として定着した。今後、欧州で金融不

要因は円安を招く。